

Syllabus Id	Syl-062332
Subject Id	Sub-062-007700
更新履歴	20060116 新規
授業科目名	日本語 Japanese as the Second Language
担当教員名	高澤啓子 TAKASAWA Keiko
対象クラス	5年生留学生
単位数	1履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	留学生選択教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験 2 級レベル以上の日本語能力、基本的科学技術用語

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D 日本語による論理的文章の作文力、口頭発表力、コミュニケーション能力を養う。科学技術分野の表現能力、レポート作成能力の向上。異文化理解。			
学習・教育目標の達成度検査	1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。		

授業目標

自分の専門分野の論文を独力で読むことが出来る。論理的文章を書くことが出来る。
知識として得た用語と定型表現を実際に使用することが出来る。教科書の読解、講義の聴講、実験実技を円滑に行うことが出来る。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準、スケジュール等の説明。地震と防災について。	
第2回	1.文体	レポート、論文に使われる文体	
第3回	2.文の基本	1. 自動詞と受身	
第4回	2.文の基本	2. 「は」と「が」	
第5回	2.文の基本	3. 名詞化	
第6回	2.文の基本	4. 首尾一貫した文	
第7回	記号	句読点、各種記号、	
第8回	5. 引用	引用のしかた	
第9回	段落	段落の構成	
第10回	段落	段落相互の関係	
第11回	仕組みの説明	「株式会社のしくみ」	
第12回	仕組みの説明	「外国人の市制参加」	
第13回	歴史的な経過	高専祭発表準備	
第14回	歴史的な経過	高専祭発表準備	
第15回	前期末試験	まとめ	×

第16回	分類	「和語・漢語・外来語・混種語」、高専祭発表準備	
第17回	分類	高専祭発表準備	
第18回	定義	「道具」とは、高専祭発表準備	
第19回	定義	「バリアフリー」とは、	
第20回	要約	一段落の文章の要約	
第21回	要約	複数の段落からなる文章の要約	
第22回	比較・対象	表、箇条書き、	
第23回	比較・対象	「税金と福祉、スウェーデンとの比較」	
第24回	因果関係	「お魚増やす植樹運動」	
第25回	因果関係	「お魚増やす植樹運動」	
第26回	論説文	「パラサイト・シングル」	
第27回	論説文	「パラサイト・シングル」	
第28回	資料の利用	図表・数値を使った説明、	
第29回	資料の利用	資料の探し方、留意点、	
第30回	後期末試験	まとめ	×

課題とオフィスアワー

選択課題：日本語スピーチコンテスト参加 / 地域のイベントに参加 / 自由テーマの作文提出

評価方法と基準

評価方法

試験、質疑応答、練習問題、課題、

評価基準

前期・後期（試験 40%、宿題・提出物 40%、出席・授業態度 20%）

学年末評価（前期 40%、後期 40%、課題 20%）

教科書等

二通信子他著：改訂版留『学生のための論理的な文章の書き方』1,400
山崎信寿他著『科学技術日本語案内』新訂版（慶応義塾大学出版会）¥4,800

先修科目

日本語中級前期・後期（試験 40%、宿題・提出物 40%、出席・授業態度 20%）
学年末評価（前期 40%、後期 40%、課題 20%）

関連サイトのURL

授業アンケートへの対応

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。
3. 理解度にあわせてシラバスの変更を行うことがある。